

初石駅東口開設へ 一步前進 利用者・地域・行政・議会が一致団結を

入出場可能な改札

8月31日から開催されている市議会。石原修治議員（流政会）の一般質問に対し、市当局はH28年3月から駅東側の地域住民や自治会、自治会連絡協議会、駅前商店会等との意見交換を踏まえ、「スイカ、パスモによる入出場可能な改札※を整備する」と表明。今後、「早々に、東武鉄道と協議に入る」「年明けには、地元の皆様に」報告したい」と答弁しました。また、東口改札に伴う駅前整備や車両の通行動線等についても、意見交換をし、まとめるとしました。

今議会の『出退上可能な改札』は、H27年3月議会での小田桐市議に対する答弁を再度確認したのですが、地域住民との協議を踏まえての行政決定であり、一步前進といえます。

※券売機は西口のみ。自動改札が2機程度で駅東側から直接柏行きホームに入出場が可能

『地域一丸』の取り組みが欠かせない

事業化の早期実現性、財源確保、工期圧縮、維持費の低減、駅東側への負担軽減等を踏まえれば、簡易改札が最もベストです。

高校生議会でも流山高校の生徒さんが強く要望しています。

市議会では、党派を超えた議員が質問等で取り上げており、今年6月には、市議会全会派から7名の議員と初石東地区自治会連絡協議会の懇談会が初めて開催されています。

東武鉄道にも、国会にも足を運び交渉 一步、一步、改善へ

小田桐市議は、H11年、市議会議員当選後、毎年、初石駅の改善を質問。トイレの水洗化、エレベーター設置と一步一步改善。東口については簡易改札をH16年当時から提案しています。

今後は、一番難関の東武鉄道との交渉です。また、バリアフリー用のスロープ併設や車両乗入やポイ捨て禁止など駅前環境整備も必要です。市域・党派を超えた『地域一丸』の取り組みが欠かせません。一緒に力を合わせましょう。

また、東武鉄道と4度交渉し、国会にも足を運び、国土交通省に「市との協議のテーブルに東武鉄道が応じるように」と指導



流山市議

小田桐たかし